

市長の政治姿勢をただす

田中ははじめ市議が代表質問①



代表質問する田中はじめ市議

12月議会的一般質問は、7日から3日間行われました。

初日、田中はじめ市議が共産党市議団を代表し、市長の政治姿勢、原発問題、コロナ感染症対策、安心して生み育てられる施策、市職員・教職員の超過勤務問題の5つのテーマで質問しました。

田中市議は、第一のテーマである市長の政治姿勢について、核兵器禁止条約を取り上げました。

田中市議は、「10月24日、50か国目の条約批准が実現し、2021年1月22日をもって核兵器は違法化され、核兵器のない世界への重要なステップ

を上げる。核兵器禁止の実現に向け、被爆者を先頭に多くの市民の皆様が、75年間続けてこられた多大なご努力、これからも取り組み続ける決意に対し、平和都市宣言をしている自治体の市長としての見解を伺う」と質しました。

これに対し、松浦正敬市長は、「核兵器禁止条約を実現した市民の努力をどう考えるかについては、先般、加藤官房長官が、記者会見において『条約がめざす核廃絶というゴールはわが国も共有している』と述べた。引き続き、国

において核兵器廃絶に向けた取り組みを着実に進めていたいただきたいと考える」と答えました。

市民と共に歩んで

市民アンケートの声

舟木けんじ



ざいそう

共産党が市内で配布した「市民アンケート」に、切実な声が寄せられています。

「コロナで仕事を失い、必要な支払いができない」20代女性。「パートのシフトを減らされた」50代女性。「今の日本は貧富の差がありすぎる」

富める人から弱者へ分配するシステムを考えてほしい」60代女性。「ボーナスは支給されず給料は減額された」70代男性。「リーマンショックでリストラに会い、転職先でうつ病に。今は年金暮らしだが、自助ではどうにもならない」70代男性の方。

コロナ禍の中、自己責任押し付けの政治が、若者や女性、年金生活者に影を落とす中、20代女性の方から「こんな自

民党政治は終わりにしてほしい」という声も寄せられています。

先日、コロナの影響を特集したテレビ番組で、仕事が減り、食パンの四辺を切り、真ん中はわが子に食べさせ、自分分はパンの耳をかじる母親の姿がありました。一方、毎夜のごとく高級レストランでの会食を繰り返している菅首相たちの姿が報じられました。国民の傷みがわかるはずがありません。

政治をかえたいと願う皆さんと力合わせ、総選挙と市長・市議選勝利で、くらし最優先の政治実現のため全力でがんばる決意です。

「松江市の文化力を生かしたまちづくり条例」案について

吉儀けい子市議の一般質問①



一般質問する吉儀けい子市議

吉儀けい子市議は、8日に4点の一般質問を行いました。はじめに、松浦正敬市長の退任表明を受け、東出雲町が合

併前に取り組んでいた「学校図書館司書配置・5歳児検診の実施・産業支援センター設置」を全市に広げた取り組みに感謝。残りの期間、憲法を地方自治に生かすため、立場に違いがあっても共に歩む決意を表明した後、第1の質問である「松江市の文化芸術政策」を取り上げました。

松江市の文化力を生かしたまちづくり条例」を制定することとなり「コロナ禍の中で文化芸術に対する認識が変わったのか」との質問に、松浦正敬市長は「スカパラーケストラの演奏を聞いて感動

し、文化芸術の振興を条例を通して図っていかねければならないと痛感した」との答弁でした。

条例案に対する意見集約は、文化協会加盟の95団体と32の公民館館長に意見を聞いたこと、134件のパブリックコメントが寄せられたことが明らかになりました。

吉儀市議は、市が条例をスローガンに終わらせず「文化芸術振興計画」を策定し、達成状況を点検評価し次に進む姿勢を明らかにしていることを評価し、専門家の配置等を要望しました。

市長は聞く耳をもって対話の継続を

橋祥朗市議の一般質問①



一般質問する橋よしあき市議

12月9日、橋祥朗市議は、一般質問に立ち、「新庁舎建設をめぐる住民投票を求める市民の運動があった。住民投票条例案は否決されたが、

この間、市長は住民団体との対話を拒み続けた。市民の代表である市長は、自らの市政運営に反対の態度を取る市民であつても、対話を拒むことは許されない。ケーブルテレビや、記者会見での発言は一方通行であり、お互いの理解を深めることにはならず、言葉足らずや部分的な報道で、誤解と不信を広げた」と指摘。

「少なくとも市民が市長は聞く耳をもたなかった、新庁舎建設は強行された」と、市長や市政へ不信感を持ち、市民間の分断が残されることになると述べ、この間の新庁舎建設をめぐる市民団体への対応や発言に対する市長の見解を求めました。

松浦正敬市長は「署名提出時に市民団体の思いも聞き、又、5年前からの事業経過を説明した。しかし、実施計画が最終版をむかえ、財源となる有利な地方債の期限もあり、改めて事業中止の議論をすることは適切でないと判断した。今後は新庁舎の利活用について意見を聞く」と答弁。

橋市議は、「これで終わりではない、引退を決意したなら、最後まで理解と納得を得る努力を」と迫りました。

